

亜細亜大学 2号館



外観

「亜細亜大学」は、1941(昭和16)年開校の旧制興亜専門学校を前身とする私立大学。2号館は武蔵野キャンパスのほぼ中心に位置し、最新のAV機器を備えた中・大規模教室や、1Fには学生がくつろぐラウンジを有する。



トイレ入口



遠くからでも、男性トイレ・男女共用トイレ・女性トイレの確認ができるよう、アイアン製の突き出しピクトグラムを設置。また、入口を進むと、突き当りの壁にも、視認性に配慮したピクトグラムが施されている。



男性トイレ  
洗面・  
スタイリングコーナー

手洗い後の床への水垂れを抑えるため、洗面器の間に、クリーンドライ(ハンドドライヤー)を設置。男性トイレにも、隣人の視線に配慮して間仕切りを設けたスタイリングコーナーを用意している。



男性トイレ  
小便器コーナー



荷物配慮としてライニングを設け、荷物が落ちないように、手前を立ち上げている。小便器の間には、プライバシーに配慮した、奥行き400mm×高さ600mmのサイズの仕切り板を設置している。



男子トイレ 大便器ブース



大便器は、コンパクトなデザインで連続洗浄可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。3～6Fのトイレには、使用中の姿勢の保持や、立ち座りをサポートするL型手すりや、各1ヶ所設置している。



男性トイレ 大便器ブース



2Fのトイレ内には、オストメイトに配慮して、通常ブース1ヶ所に、ストーマ器具などを両手で支えて容易に洗浄できる、パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれを設置。1Fのバリアフリートイレと機能分散を図っている。



女性トイレ  
洗面・  
スタイリングコーナー



洗面コーナーには、シンプルなデザインで水じまいのよい壁掛ハイバック洗面器を採用。シッティングタイプのスタイリングコーナーは、鏡に近づいて化粧直しができるよう、カウンターの奥行きを300mmとしている。



女性トイレ  
スタイリングコーナー



3～5F女性トイレのスタイリングコーナーは各4席用意。各席にカウンターや個別鏡、間仕切り、コンセントなどが備え付けられている。さらに、フロアごとに色違いの椅子を配置し、印象を変えている。



女性トイレ  
大便器コーナー



大便器ブースの間仕切り壁を天井まで立ち上げ、防犯対策を図るとともに個室感も高めている。大きな荷物などを持ったまま入ることができる、ゆとりのあるスペースを確保。白い扉が壁面とコントラストを付けている。



女性トイレ  
大便器ブース



2F女性トイレにも、オストメイトに配慮した大便器ブースを用意。手をかざすだけで便器洗浄ができるセンサースイッチと、小物を置ける棚は、男女すべてのブースに設置している。



2F 男女共用トイレ



2～5Fには、トランスジェンダーなど多様な利用者に配慮した個室完結型の男女共用トイレを各1ヶ所設置。入口には、男女共用とわかるよう男女のピクトグラムを掲示。小物を置ける棚やチャームボックスも用意されている。

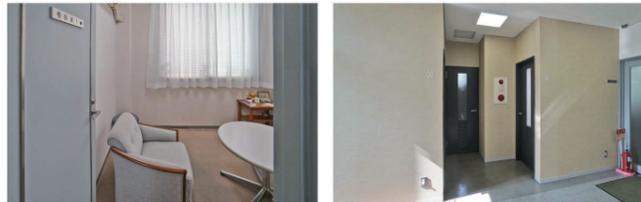


3・4F 男女共用トイレ



男女共用トイレの入口に前室を設け、廊下から出入りを見えづらいうレイアウトとし、プライバシーに配慮。フロアによってトイレ内装の色を変え、好みや気分にあわせて選べるようにしている。

# 亜細亜大学 2号館



カウンセリングセンター内観

2号館西隣に設置されているカウンセリングセンターは、学生生活の中で直面するさまざまな問題について、カウンセラーに相談することができる施設。今回のトイレ改修とともに、待合室の家具なども一新された。



カウンセリングセンター女性トイレ

以前の男性トイレスペースを、広くゆったりと使うことができる個室完結型の女性トイレに変更。大便器ブースのほか、スタイリングコーナーや洗面器、クリードライ（ハンドドライヤー）を完備している。



改修前

改修前は、男性トイレ内が見えないよう目隠しするためのパーテーションや和式便器が残っていたが、今回の改修で視線に配慮したレイアウトに変更。大便器もすべて洋式便器に変更した。



カウンセリングセンター男女共用トイレ

もともと女性トイレだったスペースを、用足しから手洗いまでを個室内でできる個室完結型の男女共用トイレに改修。トランスジェンダーなど多様な利用者に配慮している。



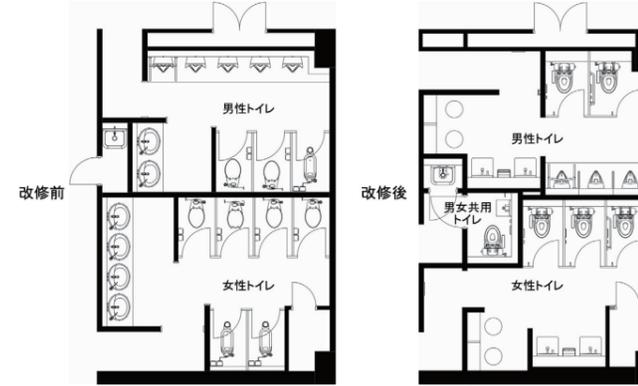
カウンセリングセンター女性トイレ

明るいグリーン系の壁紙が、爽やかな雰囲気。大便器は、掃除口付きのパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。スタイリングコーナーには、椅子が用意され落ち着いて化粧直しができる。

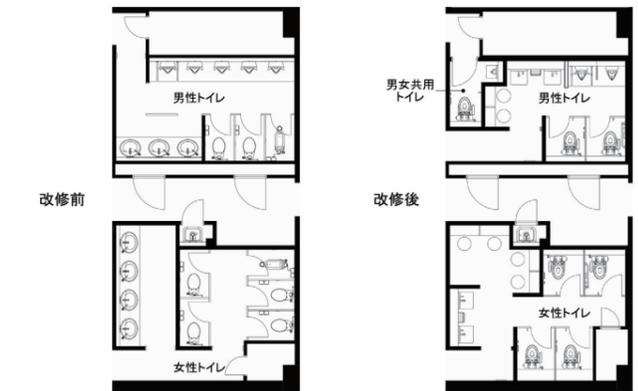


カウンセリングセンター改修前

カウンセリングセンターのトイレは改修により、男性トイレを女性トイレに、女性トイレを男女共用トイレへと変更。施工性を重視して、既存のレイアウトを最大限に活かしている。



2Fトイレ図面



3・4Fトイレ図面



カウンセリングセンター1Fトイレ図面

## 水まわりの特長

### 改修の経緯

「亜細亜大学」は、1941（昭和16）年開校の旧制興亜専門学校を前身として設立された私立大学。多様な価値観を重視するトイレ改修を推進。このたび2号館では、既存の和式便器をすべて洋式便器に交換することを契機に、ウォシュレット設置の検討と災害対応を目指し、さらに、小中高校でのジェンダー平等への取り組みが進んでいる昨今、より自由に多様な学生を受け止めるよう、男女共用トイレを設置することも目的に加えられた。これにより、2～6Fの男性・女性トイレが改修され、男女共用トイレを2～5Fに新設した。また、2号館は学生が多く利用する棟であるため、夏休み期間中に工事をスタート。一番混雑する下の階から順に終わらせていくことを計画し、2023（令和5）年11月にトイレ改修が完了した。

### トイレの特長

各トイレの大便器ブースは、既存の便器数にとらわれず、ゆとりを持ったスペースを確保し、心地よく使いやすいことを優先。もともと2号館1Fのバリアフリートイレには、オストメイトに配慮した汚物流しが完備されていたが、今回の改修で、2Fの男女トイレにも、パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれを設置し、機能分散を図っている。2～5Fの各フロアと2号館西側のカウンセリングセンターには、男女共用トイレを新設し、トランスジェンダーなど多様な利用者に配慮した。また、2号館男女トイレ内では、スタイリングコーナーを充実。内装はグレーを基調とし、アクセントにイエローを選定。男女共用トイレの内装は、フロアによってブラックまたはグレーの壁紙を用いて、気分にあわせて選べるようにしている。

## 建築概要

|       |   |
|-------|---|
| 名称    | 亜細亜大学 2号館   |
| 所在地   | 東京都武蔵野市境5-8   |
| 施主    | 学校法人 亜細亜学園  |
| 設計    | 東急建設株式会社  |
| 施工    | 建築 東急建設株式会社(2号館)<br>株式会社ゴープレイス(カウンセリングセンター)                     |
| 設備    | 東急建設株式会社(2号館)<br>株式会社中央建築設備・大坪電機株式会社・<br>株式会社日本サマー(カウンセリングセンター) |
| 竣工年月  | (改修)2023年11月  |
| 敷地面積  | 52,647.49㎡  |
| 建築面積  | 2,269.038㎡(2号館)<br>162,680㎡(カウンセリングセンター)                        |
| 延床面積  | 8,697.15㎡(2号館)<br>150.63㎡(カウンセリングセンター)                          |
| 構造・階数 | 鉄骨鉄筋コンクリート造・地下1階、地上6階(2号館)<br>鉄筋コンクリート造・地上1階(カウンセリングセンター)       |

## おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BC
- ウォシュレットP:TCF589AEY
- チャームボックス(汚物入れ):YKB102
- 自動洗浄小便器:UFS900系
- 壁掛ハイバック洗面器:LSA125DC、LSA135DC
- クリードライ(ハンドドライヤー):TYC420W
- パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれ:EWCS812AR
- 棚:YKH50A
- 化粧鏡:YMK51K、YMK52K、YM4545FG
- 全身鏡:YMK50K